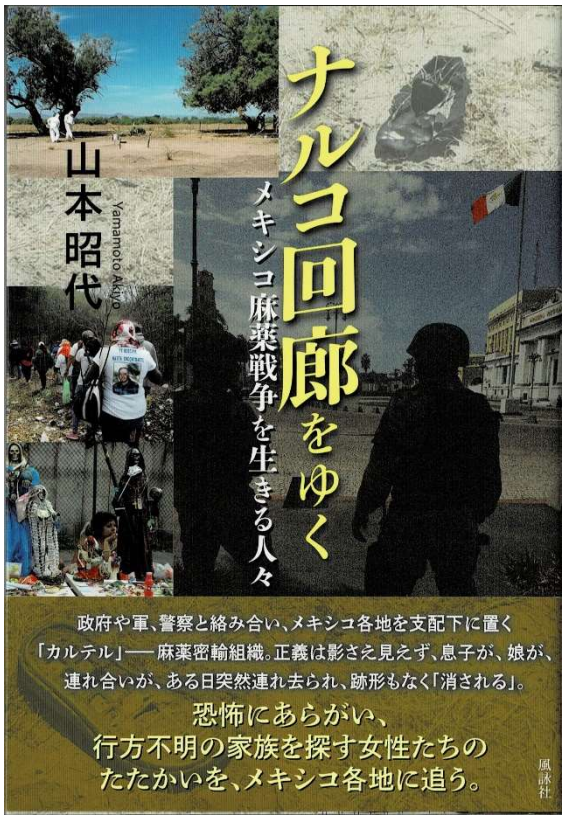
# 『ナルコ回廊をゆく――メキシコ麻薬戦争を生きる人々』

山本昭代、風詠社

**「そんりさ」に長年掲載させていただいてきました「ナルコ回廊」がようやく本になりました。**

各章には、「そんりさ」には書ききれなかった情報を書き加え、またメキシコ麻薬戦争の歴史や背景なども詳しく紹介しています。読んでいただければ、今日のメキシコ麻薬戦争の最新の状況と終わらない理由が見えてくるのではないかと思っています。

メキシコ麻薬戦争の中でもとりわけ悲惨なのが、11 万人とも 12 万人ともいわれる行方不明者です。その多くは、犯罪組織が何らかのかたちでかかわっており、当局に訴え出ても探してもらえず、組織からは脅され、行方不明者の家族は孤立無援の状況に置かれます。

そんな危機的な状況のなかで、息子や娘を探す女性たちが、恐怖を乗り越え、同じ立場の女性同士が連帯し、支えあい、ショベルや探査棒を手に、山野に分け入っていく姿に、私は感銘を受けました。

行方知れずの家族を探す女性たちは、遠い日本からやってきた私に、自分たちが置かれている状況や、当局からどんな理不尽な仕打ちがされたか、行方知れずの息子や娘へのせつない思いなど、口々に語ってくれました。それぞれの人の物語は、私自身、何度も読み返しているのに、そのたび涙ぐんでしまうほどです。皆、地球の反対側であっても、ひとりでも多くの人に、メキシコで起きているこの人権侵害の悲惨な状況を知ってもらいたい、という思いから口を開いてくれたのです。その思いを、ようやくかたちにすることができました。メキシコの勇気ある女性たちの思いを、共有してもらえたらと思います。(山本昭代)